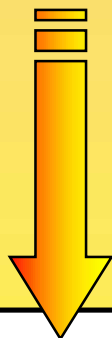


名鉄「御嵩駅」が生まれかわりました！



塗装が落ち、あちこちに傷みがみられた「御嵩駅舎」…。破風に至っては板がめくれてしまっていました。

Before



After

宿場町風のシックな茶色系で統一。
落ち着いた雰囲気
に生まれかわりました。



めいてつ みたけえき しゅうけい
名鉄「御嵩駅」の修景

2009.6/28.7/2

御嵩町では、これまでに「第四次総合計画」及び「御嶽宿再生構想」を経て、「御嶽宿地域」を中心とするまちづくりについて話し合いを重ね、昨年10月からは「御嶽宿地域景観等整備指針」を策定するため、住民のみなさんや地域活動団体、高校生や大学生、岐阜県などが参画して「御嶽宿」の保存や活用について懇談してきました。



こうした取り組みのなか、社会実験としてゴミ集積箱の修景や灯籠づくりをおこない、自分たちで景観づくりをおこなっていく意識を確認し、今年度はさらに取り組みの範囲や規模を広げて修景事業に取り組んでいこうと、「御嶽宿」の入口にあたる名鉄「御嵩駅」を修景しました。

6月28日（日）は、御嵩町産直組合の亀井さんにご指導いただきながら、町民有志のみなさん、日本福祉大学の学生さんら約20名が参加し、駅舎の傷んだ部分を杉板に貼り替えたり、宿場の雰囲気演出する格子を製作・取り付けたりと、30度を超える暑さのなかみんなで汗を流しました（昼食には「みたけ華ずしの会」から「華寿司」の差入れと、「広見線を守ろう会」からは冷え冷えの「すいか」をいただきました）。

また、7月2日（木）には可茂塗装工業会のみなさんに柱や壁の塗装をおこなっていただき、御嵩駅舎は見違えるような姿に変身しました。



この御嵩駅が「御嶽宿」の玄関口として、通勤通学はもとより、観光で訪れる皆さんにも愛される場所になってくれればと思います。